

「大学の技術職員組織を考えるシンポジウム in 山口大学」参加報告

システム情報技術系

大角 義浩、山田 克己、稲嶺 咲紀

1. はじめに

「平成 27 年度 実験・実習技術研究会 in 西京」の開催に併せて「大学の技術職員組織を考えるシンポジウム in 山口大学」と題したパネルディスカッションが行われた。

技術職員組織には多くの課題を抱えている状況である認識の下、先駆して全学組織化された大学の技術職員をパネリストに迎え、全学組織の事例を紹介、今後の大学の技術職員組織のあり方について意見交換する場として開催された。

日時

平成 28 年 3 月 3 日（木） 9:30～11:30

会場

共通教育講義棟 1 番教室（主会場）・2 番教室（中継会場）

2. 報告事項

シンポジウムは、コーディネーターは岡氏（北海道大学）、コメンテーター玉岡氏、パネリストとして小綿氏（岩手大学）、丹松氏（鳥取大学）、水野氏（静岡大学）、村上氏（広島大学）の 4 名により行われた。

シンポジウムの進行は、各大学の技術部組織の概要について説明があった後、

- ①組織化の背景（どのように組織化されたか？一元化のために何をしたか？）
- ②組織の紹介（人材育成、技術・業務、予算などで何が変わったか？プラスに働いたことは？）
- ③抱える問題（組織化（改組含む）以前からの継続課題は？マイナスに働いたことは？）
- ④今後のあり方（我々の選択、一元化に向けて何をすべきか）

のセッションごとにパネリストから説明の後、参加者から質問を受ける形で進められた。

技術職員の全学組織化のきっかけは、中期目標・中期計画に記載された等のトップダウン型が多く、メリットとしては処遇面や職務の可視化が挙げられた。抱える問題として①多忙化、②全学組織化になったにも関わらず教員や技術職員の意識が追いついていかないなどが挙げられた。今後の在り方としては、業務ごとに組織改編やマネジメントできる人材育成等の各大学の実情を踏まえた多様な課題が挙げられた。

3. 感想

これから技術職員組織の一元化を検討している大学の技術職員には組織化のきっかけ、各組織の現状、プラス面やマイナス面などを一通り理解するために、非常に有益な情報を得る機会になった。本学を含めてこれから技術職員組織の一元化を計画している大学も多くあることから、今後とも大学相互に情報交流を行っていく必要を感じた。